



北中だより

学校教育目標「自ら考え なかまと磨き合う 北中」

菊池北中学校
学校だより No3
文責 芹川博文
4月26日(金)

「ひと手間」から生まれる「気持ちのよい空気」 ～ 1年生「黒板の拭き方」の話の中から～

朝の1年生の教室をのぞくと、担任の吉里先生による「黒板の消し方」の指導中でした。吉里先生曰く。「教室が机の上の勉強スペースだとすれば、黒板はノートに当たります。汚れたノートと真っ白なノートでは、勉強のやる気も変わってくるでしょう。どの教科も気持ちよく授業を始めるために、このひと手間が大切です」と。「ひと手間」という言葉が印象的でした。その言葉の奥にある相手意識。ちょっとした心配りの言動で、その場が「気持ちのよい空気」に変わることを伝えられていました。



今年の1年生は早速「新しい風」を吹かせてくれています。その一つが「立ち止まってのあいさつ」です。受けた方はとても気持ちがよく、爽やかな「空気の変化」を感じます。立ち止まることの「ひと手間」で確かに変わります。

ちなみに2, 3年生の姿で印象的なのは、ドアのある場所での所作です。北中4つの校舎の入り口にドアがありますが、生徒たちは、ドアの向こうから「どうぞ」と立ち止まり、先に通してくれます。その姿の清々しさ。ちょっと大袈裟かもしれませんが、「我先に」や「時短（時間のムダをいかに省くか）」の時代の潮流の中で、そぎ落とされた「大切なもの」を思い出させてくれるかのようです。

「私を後に、公を先にすべし」（「北中綱領」より）。北中に赴任して、時間の流れの豊かさを感じる瞬間が増えました。

吉里先生は最後に、「あなたたちの中には、あと3年すれば義務教育を終えて社会に出る人がいるかもしれません。あと6年後に社会に出る人は多いでしょう」との言葉。自律を見据えた話に1年生の背筋が一段と伸びます。小学校を卒業したばかりという事実と共に、あと3年で社会人になるかもしれないという現実。1年生の中にも「一日の稽古を鍛とし・・・」の菊心魂が芽生え始めていることを感じた朝でした。

歩くこと、立ち止まることで見えてくるもの ～ 自然の美しさと歴史の深さを感じながら～

先週末、北中校区を車で回ってみました。これまで何気なく通っていた場所ですが、所々で車を停めて、歩きながら眺めると、改めて美しさや歴史の深さ、そして何よりその広さを実感しました。スクー



ルバスで通学する生徒も多い北中校区。これからも歩くことを大切にしたいと思っています。

「これは!？」と、立ち止まって職員玄関を見上げると、ひさしにツバメの巣がありました。朝から親ツバメが忙しそうに飛び交っています。



南の島からはるばる飛んで来るツバメ。地図もスマホも持たずとも、同じ場所に戻るというから不思議です。そんなツバメの巣がある北中。自然と共存している感じを味わっています。

自由な発想で思いを込めて ～ 学校目標と生徒会テーマとのコラボ～

有志で集まった生徒たちが、学校教育目標の応用紙に思い思いの色を添えてくれました。（写真上が、作成時の様子、下が完成作です。）



今年度の北中の学校教育目標「自ら考え、なかまと磨き合う北中」と、生徒会テーマ「My color 1人1人の色で描く北中」がコラボ（合体）した形になり、一気に明るくなりました。

目標は掲げて終わりでは意味がありません。本気で考え、磨き合い、生徒一人一人の色が輝く北中となるよう挑戦します。呼びかけに快く集まった生徒の姿もその一歩だと感じました。

